

(株)坂口捺染(スクリーン印刷・岐阜市)

従業員に徹底的に向き合って生まれた社内改革

- ・ 多能工化（1人が複数系統のスキルを習得）と従業員の働ける時間帯を柔軟に組み合わせ業務ラインを構築
- ・ 出勤日と入社・退社時間は従業員で選択・決定
- ・ 障がい者や高齢者も積極的に雇用し、就労機会の創出と企業の業績向上を同時に実現



Tシャツなどのプリント印刷が同社の主な業務

「経営者は目の前の従業員に毎日徹底的に向き合うこと」と坂口輝光^{さかぐちてるみつ}社長は熱く語ります。

「出勤日と入社・退社時間は従業員が決める」というユニークな短時間雇用が始まったのは、家業である同社を「先が見えない「町工場」から安定して続いていく「会社」にしたかったから」という社長の思いがきっかけです。

脱「町工場」へ、分業化や多能工化で残業を減らす

社長は、幼いころから両親の働く背中を見て育ち、家業を継ごうと思いつつ、疑問も感じていました。残業が当たり前だった当時、両親は自分たちの収入を減らして、給料が高い管理職に高い時間外手当まで払って会社を切り盛りしていました。しかし、管理職はダラダラと仕事をして残業代を受け取っており、実際に戦力になっているのは給料が安い若手社員。まさに先が見えない町工場といった経営でした。そこで、不要な残業を減らし、経費を削減するために、まず取り組んだのが現場の分業化です。何度も現場や管理部門とぶつかりながら、従業員と徹底的に向き合い、徐々に業務を細分化し、多くの従業員が複数の業務をこなせるようになる多能工化も併せて進めました。誰もがひと通りの業務をこなせるようになると、一人で業務を完結させる必要がなくなり、会社全体の残業を減らすことが出来ました。しかし、苦労は続きます。

従業員の働きやすい時間に働いてもらうことで事業を拡大

会社の事業や取引先を拡大するため、パートスタッフの募集をはじめたもののフルタイムの9時～17時の募集ではなかなか人が集まりません。そこで、

社長は、子育て中の女性は子どもの迎えや夕食の準備など夕方の時間帯は働けないと聞き、働ける時間帯である9時～15時での募集に変えてみたところ、子育て中の女性を中心に募集枠を超える応募が殺到。それ以降、同社では、出勤日と入社・退社時間は会社が決めるのではなく、従業員の希望に応じて、従業員が一番働きやすい時間帯で働けるように変更しました。結果、事業や取引先も拡大し、会社も大きく成長していきました。

経営者は従業員のために徹底的に尽くす

これまで坂口社長が大切にしてきたのは、とにかく従業員と向き合うこと。そして「経営者は従業員のために徹底的に尽くす」という思いでした。従業員一人一人の人となりや家庭などで抱えている事情などを社長自身が細かく把握し、日頃から一人一人にこまめに声掛けをしています。「社長は偉くない。従業員に尽くすため、会社では一番下だ」とも語ります。その思いを反映し、同社の社員一覧を表示したホワイトボードでは、社長が底辺に表示されています。



出勤ボードを見せて説明する社長

就労機会の創出と業績向上を同時に実現

現在は、シングルマザーや障がいがある方、引きこもりだった方などの採用も積極的に進め、従業員の年齢も10代から80代までと幅広く、それぞれの能力を生かし、支えあって仕事をしています。これも多能工化ができてこそその効果でした。また正社員で採用されても、子どもの事情などでフルタイムでの勤務が難しい時期には一時的にパートタイムに変更するなど、従業員本位の柔軟な働き方に対応しています。結果、社員募集はせずに、口コミのみで従業員を安定的に確保されています。さらに売り上げも10年間で10倍になるなど、就労機会の創出と会社の業績向上を同時に実現しました。

令和6年、同社は近隣に駄菓子屋やカフェ、自社オリジナルのアパレルショップなどを併設した複合施設をオープンさせ、子どもから高齢者まで地域の人が集い、憩いの場となる施設を作りました。今では働く場所である「会社」の枠を超え、地域コミュニティから必要とされる存在に成長しています。



工場に併設する複合施設（カフェ）

【従業員の声】

学校の夏休みなど長期のお休みだけでなく、不登校の子を持つ親も子連れ出勤させてもらっています。親の働く姿を見て子どもも学校に行くことに前向きになったり、坂口社長の姿を見て『社長になりたい』と言い出す子もいて、家族にもいい影響を与えてもらっています。

【(株) 坂口捺染】 (<https://sakaguchinasen.com/>)

所在地：岐阜市中西郷1丁目71-2

従業員：230名（うち正社員47名、その他パート・委託契約社員）

設立：昭和29年

（令和7年5月末時点）